(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3217202号
(U3217202)
(45)発行日　平成30年7月26日(2018.7.26)　(24)登録日　平成30年7月4日(2018.7.4)

(51)Int.Cl.　　F I
A45C 3/00 (2006.01)　A45C 3/00 Q
A45F 3/04 (2006.01)　A45F 3/04 300

評価書の請求 未請求　請求項の数 8　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2018-1717(U2018-1717)
(22)出願日　平成30年5月14日(2018.5.14)

(73)実用新案権者　518167985
小小時裝設計有限公司
香港九電荔枝角青山道６５８號福至工業大廈５樓Ｂ室
(74)代理人　100130111
弁理士　新保　斉
(72)考案者　鄭　冠文
香港九電荔枝角青山道６５８號福至工業大廈５樓Ｂ室

(54)【考案の名称】リュックサック

(57)【要約】　（修正有）
【課題】精巧で、構造が簡単で、リュックサック及び手提げバッグを兼用でき、各種荷物を収納すると共にリュックサック内の荷物に対し全面的な保護を行うことができ、軽量及び外観が美観で、同時に良好な盗難防止機能も持ち、リュックサックの機能性及びファッション性という最適なバランスが取れるリュックサックを提供する。
【解決手段】リュックサックは、リュックサック本体１とリュックサック本体１の背胴に設けられたショルダーベルトとを備え、リュックサック本体１の表胴と背胴との間に主収納部及び主収納部を開閉するファスナーが設けられ、リュックサック本体１の表胴及び背胴に各々第１持ち手ベルト３及び第２持ち手ベルト４が設けられ、第１持ち手ベルト３と第２持ち手ベルト４との間は第５連結部材５を通じて互いに連結される。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
リュックサック本体（１）と前記リュックサック本体（１）の背胴に設けられたショルダーベルト（２）とを備えるリュックサックであって、前記リュックサック本体（１）の表胴と背胴との間に主収納部及び前記主収納部を開閉するファスナーが設けられ、前記リュックサック本体（１）の表胴及び背胴に各々第１持ち手ベルト（３）及び第２持ち手ベルト（４）が設けられ、前記第１持ち手ベルト（３）と前記第２持ち手ベルト（４）との間は第５連結部材（５）を通じて互いに連結されることを特徴とする、リュックサック。
【請求項２】
前記ショルダーベルト（２）は、人体の背中に背負うための第１ショルダーベルト（２１）と、前記ショルダーベルト（２）の全長を調整するための第２ショルダーベルト（２２）とを備え、前記第１ショルダーベルト（２１）及び前記第２ショルダーベルト（２２）に各々前記第２ショルダーベルト（２２）の自由端を前記第１ショルダーベルト（２１）上に固定するための第１連結部材（２３）及び第２連結部材（２４）が設けられることを特徴とする、請求項１に記載のリュックサック。
【請求項３】
前記第１連結部材（２３）及び前記第２連結部材（２４）は、各々ホックの雌金具及び雄金具であることを特徴とする、請求項２に記載のリュックサック。
【請求項４】
前記リュックサック本体（１）の表胴下方にフロントポケット（６）が設けられ、前記フロントポケット（６）の上方に前記フロントポケット（６）の開口部を覆うことができる表カバー部（８）が設けられ、前記表カバー部（８）は、第４連結部材（７）を通じて前記フロントポケット（６）の正面部と連結されることを特徴とする、請求項１に記載のリュックサック。
【請求項５】
前記第４連結部材（７）は、前記表カバー部（８）に取り付けられたベルトと、前記フロントポケット（６）の正面部上に取り付けられたバックルとを備えることを特徴とする、請求項４に記載のリュックサック。
【請求項６】
前記リュックサック本体（１）上に前記主収納部及び前記ファスナーを覆う被覆部（９）が設けられることを特徴とする、請求項１に記載のリュックサック。
【請求項７】
前記リュックサック本体（１）の背胴内にウレタン材が設けられ、前記リュックサック本体（１）の後胴部の下方に第１ポケットが設けられることを特徴とする、請求項１に記載のリュックサック。
【請求項８】
前記リュックサック本体（１）の前胴部にインナーポケットが設けられることを特徴とする、請求項１に記載のリュックサック。

【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、スーツケース分野に関し、特に、リュックサックに関する。
【背景技術】
【０００２】
人々は、短距離の旅行又は出張の時、よく両肩リュックサックでスーツケースを代替し、このタイプのリュックサックの体積が比較的大きく、より多い荷物を携帯できるが使用しない時、取られるスペースが比較的大きい。またワンショルダー リュックもあり、このタイプのリュックサックの体積は比較的小さく、日常生活における使用が非常に便利で

あるため、人々に愛され、その体積が比較的小さいため、旅行又は出張に適さない。また、従来のリュックサックは、往々にして背負い機能のみを持ち、手提げバッグのような手提げ機能がない。社会の発展につれ、人々のリュックサック機能に対する要求も増加し、実際、同時に人々の生活及び旅行のニーズを満たすことができるリュックサックを提供する必要がある。

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【０００３】

上記技術的課題を解決するため、本考案は、様々な機能を持ち、同時に人々の生活及び旅行のニーズを満たすことができるリュックサックを提供する。

【課題を解決するための手段】

【０００４】

本考案の技術的手段としては、リュックサックであって、リュックサック本体と前記リュックサック本体の背胴に設けられたショルダーベルトとを備え、前記リュックサック本体の表胴と背胴との間に主収納部及び前記主収納部を開閉するファスナーが設けられ、前記リュックサック本体の表胴及び背胴に各々第１持ち手ベルト及び第２持ち手ベルトが設けられ、前記第１持ち手ベルトと前記第２持ち手ベルトとの間は第５連結部材を通じて互いに連結される。

【０００５】

本考案に係るリュックサックによれば、前記ショルダーベルトは、人体の背中に背負うための第１ショルダーベルトと、前記ショルダーベルトの全長を調整するための第２ショルダーベルトとを備え、前記第１ショルダーベルトの固定端及び前記第２ショルダーベルトの自由端に各々前記第２ショルダーベルトの自由端を前記第１ショルダーベルト上に固定するための第１連結部材及び第２連結部材が設けられる。

【０００６】

本考案に係るリュックサックによれば、前記第１連結部材及び前記第２連結部材は、各々ホックの雌金具及び雄金具である。

【０００７】

本考案に係るリュックサックによれば、前記リュックサック本体の表胴下方にフロントポケットが設けられ、前記フロントポケットの上方にフロントポケットの開口部を覆うことができる表カバー部が設けられ、前記表カバー部は、第４連結部材を通じて前記フロントポケットの正面部と連結される。

【０００８】

本考案に係るリュックサックによれば、前記第４連結部材は、前記表カバー部に取り付けられたベルトと、前記フロントポケットの正面部上に取り付けられたバックルとを備える。

【０００９】

本考案に係るリュックサックによれば、前記リュックサック本体上に前記主収納部及び前記ファスナーを覆う被覆部が設けられる。

【００１０】

本考案に係るリュックサックによれば、前記リュックサック本体の背胴内にウレタン材が設けられ、前記リュックサック本体の後胴部の下方に第１ポケットが設けられる。

【００１１】

本考案に係るリュックサックによれば、前記リュックサック本体の前胴部にインナーポケットが設けられる。

【考案の効果】

【００１２】

本考案の設計は精巧で、構造が簡単で、リュックサック及び手提げバッグを兼用でき、各種荷物を収納すると共にリュックサック内の荷物に対し全面的な保護を行うことができ、軽量及び外観が美観で、同時に良好な盗難防止機能も持ち、リュックサックの機能性及

びファッション性という最適なバランスが取れる。
【００１３】
以下、添付図面及び実施例を組み合わせて本考案を更に説明する。
【図面の簡単な説明】
【００１４】
【図１】本考案の実施例のある角度から見た構造を示す模式図である。
【図２】本考案の実施例に係るショルダーベルトの構造を示す模式図である。
【図３】本考案の実施例の別の確度から見た構造を示す模式図である。
【考案を実施するための形態】
【００１５】
本考案の技術的特徴、目的及び利点をより一層明確に理解してもらうため、添付図面及び実施例を組み合わせて、本考案を更に詳細に説明する。ここで記載される具体的実施例は、あくまでも本考案の技術内容を明らかにするものであって、本考案を限定するために用いるものではないことが理解されるべきである。
【００１６】
スーツケース分野において、通常リュックサック外部の前後側は、表胴及び背胴と呼ばれ、リュックサック中身の前後側が前胴部及び後胴部と呼ばれる。
【００１７】
図１及び図２に示すように、本考案に係るリュックサックは、リュックサック本体１とリュックサック本体１の背胴に設けられたショルダーベルト２とを備、リュックサック本体１及びショルダーベルト２が軟質材料で製造され、具体的材料が４２０Ｄ防水ツイルクリンクルナイロン生地で、背負う際快適で、丈夫耐用の特性を持っている。リュックサック本体１の表胴と背胴との間に大きな主収納部及び主収納部を開閉するためのファスナーが設けられ、ファスナーを全開にすると、リュックサックの表胴を１８０度裏返せることができ、人々に主収納部を通じてリュックサック内に大きな荷物の出し入れ時が非常に便利にさせる。リュックサック本体１の左右両側に各々オープンポケットが設けられ、小物又は水筒を置くために用いることができる。リュックサック本体１上に主収納部及びファスナーを覆うための被覆部９が設けられ、被覆部９の設置は一方、主収納部及びファスナーを覆うことで、リュックサック全体から見るとより一層美観させ、もう一方主収納部及びファスナーを隠すことで、他人に見つけることが困難で、リュックサック使用時良好な盗難防止の役目を果たすことができる。リュックサック本体１の表胴及び背胴に各々第１持ち手ベルト３及び第２持ち手ベルト４が設けられ、第１持ち手ベルト３と第２持ち手ベルト４との間は第５連結部材５を通じて互いに連結され、第５連結部材５が面ファスナー、バックル等に用いることができる。本実施例における第５連結部材５は、手持ちカバーで、手持ちカバーの一端が第２持ち手ベルト４上に固結され、かつホックの雌金具が設けられ、他端が自由端で、かつホックの雄金具が設けられ、手持ちカバーの自由端を第１持ち手ベルト３及び第２持ち手ベルト４に１周巻き付けると共に雄金具と雌金具を結合すると、第１持ち手ベルト３と第２持ち手ベルト４との間の連結を実現できる。互いに連結した後の第１持ち手ベルト３及び第２持ち手ベルト４は、リュックサックの持ち手として使用でき、リュックサックを手提げバッグのように使うことができ、一般的なリュックサックは背負うだけができるが手提げができない欠点を解決した。また互いに連結した後の第１持ち手ベルト３及び第２持ち手ベルト４は、リュックサック本体１の表胴と背胴を連結する役目も果たし、使用者が主収納部のファスナーの閉めを忘れた時、主収納部内の荷物が落下しないように保護する二重保障として使用でき、同時にも本実施例の盗難防止機能を更に向上した。
【００１８】
図１に示すように、リュックサック本体１の表胴下方にフロントポケット６が設けられ、フロントポケット６上方にフロントポケット６の開口部を覆う表カバー部８が設けられ、表カバー部８は第４連結部材７を通じてフロントポケット６の正面部と連結する。本実施例において、第４連結部材７は、各々表カバー部８の左右両側に取り付けられたベルト

と、フロントポケット６の正面部左右両側に取り付けられたバックルとを備える。ベルト上にバックル及びその連結位置を調整するための４個の貫通穴が設けられ、従って本実施例にフロントポケット６が収納した荷物の大きさによってベルトとバックルとの間の張り具合を調整させることができる。リュックサック本体１の後胴部の下方に第１ポケットが設けられ、ノートブック等の物を入れることができ、リュックサック本体１の背胴内にウレタン材が設けられ、使用者が背負う際より一層快適させ、同時にも第１ポケット内の荷物保護の役目を果たす。リュックサック本体１の前胴部に４個の小さなインナーポケットが設けられ、２個がファスナーポケットで、１個が面ファスナーポケットで、１個がフラットポケットであり、小物の収納に便利で、簡単でかつ実用し、使用者の異なるニーズを満たすことができる。

【００１９】

図２に示すように、ショルダーベルト２は、人体の背中に背負うための第１ショルダーベルト２１と、ショルダーベルト２の全長を調整するための第２ショルダーベルト２２とを備え、第１ショルダーベルト２１自由端の末端部に段付留め金が設けられ、かつ段付留め金を通じて第２ショルダーベルト２２と連結する。第１ショルダーベルト２１の固定端及び第２ショルダーベルト２２の自由端に各々第２ショルダーベルト２２の自由端を第１ショルダーベルト２１上に固定するための第１連結部材２３及び第２連結部材２４が設けられる。本実施例において、第１連結部材２３及び第２連結部材２４は、各々ホックの雌金具及び雄金具とする。その他の好ましい実施例において、その他の係止具又は面ファスナー等の形を用いることもできる。本リュックサックは、リュックサック及び手提げバッグという２つの機能状態を有し、手提げバッグ状態において、バッグ本体がより一層地面に近いため、できる限りショルダーベルト２の全長を短縮して地面に接触させないようにするため、本実施例内の第１連結部材２３及び第２連結部材２４の設置を通じて使用者が手提げバッグとして使用する時、ショルダーベルト２の全長をできる限り短縮することで、第２ショルダーベルト２２の自由端の第２連結部材２４を第１ショルダーベルト２１の固定端の第１連結部材２３と固結させ、第２ショルダーベルト２２を第１ショルダーベルト２１上に収納させ、従って第２ショルダーベルト２２が手提げ過程中地面に接触する状況を避けることができ；使用者がリュックサックとして使用する時、第１連結部材２３と第２連結部材２４の固定を解除してショルダーベルト２の全長を適した位置に調整するだけでよい。

【産業上の利用可能性】

【００２０】

本考案の実施例で提供するリュックサックは、実用のために設計されるもので、リュックサック中身の荷物を全面的に保護でき、同時に使用者が荷物（例えばパスポート、携帯電話、鍵、水筒等）の入れに便利で、軽量及び外観が美観で、同時に機能性及びファッション性の最適なバランスが取れる。

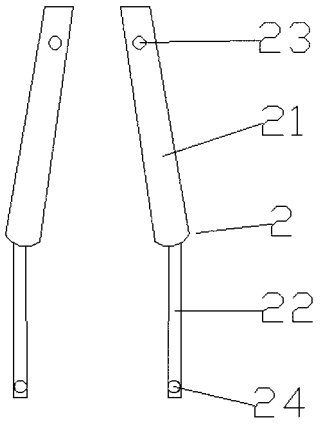
【００２１】

以上、添付図面を組み合わせて本考案の実施例を記述したが、本考案は上記具体的実施形態に限定されることなく、上記具体的実施形態がわずか例示的なものであって、限定的なものではなく、当業者は、本考案の教示下で本考案の要旨及び実用新案登録請求の範囲を逸脱しない範囲において、種々変形実施可能であるが、これらは均しく本考案が主張する保護範囲に属する。

【図１】



【図２】



【図３】

